



取材：2026年5月7日



仙川の街を造った

“建て”役者

仙川の街を造り、支えているグローバル設計さん。

事業へのこだわりや街づくりへの考え方、そして地域との関わりについて伺いました。

設計という仕事を通して、「人」と「街」を大切にしていることが伝わってきます。

村野広報委員長とは青年部会での繋がりなどもあり、気心の知れた仲でのインタビューは、冗談なども交えながらの楽しい時間となりました。

グローバル設計さんのパンフレットを見ながら、仙川の街を歩いてみるのもオススメです。



株式会社グローバル設計

調布市を中心に、45年間にわたり地元
に根ざした設計事務所として、
集合住宅・商業施設・福祉施設等
多岐にわたり建設設計をしています。

お客様の求めているものを把握し、
安心して事業がスタートできるよう
『テナント付け』や『事業収支の検討』
など、より具体的な事業計画として
提案させて頂いております。

182-0003 東京都調布市若葉町1-17-7

TEL：03-3300-0081





村野広報委員長

本日はお時間を頂き、ありがとうございます。
これはうち（株）村野商店）で作った苦しいお菓子です。（笑）



菅さん

ありがとうございます、嬉しいです。

なんで苦いお菓子を作ろうと思ったんですか？

村野広報委員長

もともと特許庁というところに行ってみたくて行ったら、相談員のおじさんに「名前はどするんだ」と聞かれたので、「じゃあ焼きビールで」と言いました。そんな一般名詞が取れるわけないだろうと言いながら、おじさんが面白がつて申し込んでくれたら通ってしまいました。
そうしたら、商標登録ができてしまったのです。
それで、「焼きビールを作ろう」ということになり、社内で試行錯誤しながら作りました。

村野広報委員長

社内で若い人が辞めないように、自分たちで企画からやったんだ！という実績を作りたいというのもあった、みんなでいろいろ試しながら。

「まだこんなじゃダメだ」「ホップを入れてみよう」とか、味見をしているうちにだんだんエスカレートしてきて、結果的にすごく苦いお菓子になりました。まあ製作所のエゴみたいなものです。

一切のマーケティングなしで、売ろうとはしていません。完成した時点で目的は果たしています。

菅さん

なるほど、作るのが「目的だったんですね。

それなら、法人会の動画と一緒にですね。作るのが目的、みたいな。

※…令和四年に、法人会青年部会で制作した租税教育アニメ「はじめての税金教室」

村野広報委員長

（商品が）できたらそれで終わりで良かったのですが。

菅さん

せっかく作ったから、配っているということですね。

村野広報委員長

はい。十人に一、二人しか美味しいと言ってもらえないお菓子です。他の方と一緒に食べると、「なんでものを食べさせてくれるんだ」とお叱りを頂くと嬉しいです。

菅さん

ありがとうございます。でも大丈夫です、クレームには慣れてますから。（笑）
では僕からはこれ（会社案内）を。



村野広報委員長

会社案内でこんなに立派なカタログがあるなんてすごいですね。

菅さん

もう作品案内のような感じです。この仙川の地図が、一番驚かれますね。

村野広報委員

そうですね。

村野広報委員長

やっぱりお仕事のエリアはこの辺りが多いんですか？

菅さん

最近は結構、他地域の案件が多いですね。うちは今、四十六期目なのですが、ちょうどこの街の成熟期に私の父が仙川におりまして、この会社を創設したんです。その頃はこの街が成長していく時期だったので、色々な建物を建てましたが、もう成熟していますので、地元からのお声がけは少なくなっています。

今は違う地域からのお仕事が多くなっています。

村野広報委員長

今はもう街が成熟したんですね。

菅さん

そうですね、もう街として世代交代も進み、今は（先代の頃のお客様の）息子さんたちの世代になってきています。

村野広報委員長

そういう感じなのです。

では改めて、大まかにお仕事の内容を教えてください。

菅さん

今は土地活用の提案が中心です。

村野広報委員長

その範囲が、今は地元中心ではなく、もっと広まっているのです。

菅さん

そうですね。もう半分以上は法人のお客様で、デベロッパーさんが主なお客様になっています。

菅さん

不動産商品のために土地を買い、それを企画し、建てて売っていくという流れです。

デベロッパーさんが土地を買う段階で、「ここにどんな建物が建つか」と相談されることも多いので、「こういう建物が建ちます。じゃあこのぐらいで売れそうですね。」と事業として成立するかを一緒に考えて提案をしています。

設計だけではなく、企画段階からかわることが多いです。

村野広報委員長

やはり法律的なところもいろいろ網羅していないといけないと思うのですが、設計するときに一番大事にしていることは何でしょうか。



菅さん

そうですね、お客様、つまり事業主が何を望んでいるかというのが一番です。

ただ、今は工事費がものすごく高騰しているので、単純に“建てれば儲かる”時代ではないんですよ。家賃も上がらないですし、なかなか利益が出にくいような状況です。

そういう意味では、お客様が何を望んでいて、どこをゴールにしたいのかをしっかりと確認し、それを設計に取り込んでいくことがすごく大事になっています。



菅さん

本当は、その街に必要なものかどうかをしつかりと考えた上でやっていきたいのですが、事業として成立させなければならぬ。お客様の利益優先で考えざるを得ないといった、そのバランスが難しいです。

村野広報委員長

今は金額もどんどん変わってきていますね。

コロナでいろいろ仕事や環境が変わったという方も多いですが、グローバル設計さんは、コロナ以降変わりはありますか？

菅さん

コロナというより、国の方針で大きく変わることが多いです。

例えば、一時期「保育園に落ちた日本死ね」というブログが話題になり、それから行政が保育園を増やそうという動きが高まりました。その時は保育園需要が急増したので、その流れでの受注は増えました。

あとは高齢者、介護の問題が出てきて、補助金がいっぱい出たり、介護保険制度の関係だったりで、老人ホームが流行った時期もありました。その時もご縁があつて、老人ホーム関係も十棟以上は建てているかと思っています。

村野広報委員長

確かに、ホームページを見てみると、高齢者施設やテナントビルなどの、大規模案件が多い印象でした。

村野広報委員長

保育所と老人ホームではまた全然違いますよね。その中でやられているのはすごいですね。

ちなみに、今まで色々なお仕事をされている中で、印象に残っているお仕事や出来事などがありましたらお聞きしても良いですか。

菅さん

そうですね、初めてやる仕事はやっぱり印象に残りますね。

その中でも、長屋形式の賃貸住宅をやったときは面白かったです。ワルームではなく、戸建て感覚で住めるようなファミリー向けにして、ペットも飼えるようにしました。

二階建てで屋上まで使えるようにしたので、上下の音も気にならないです。し、目の前が駐車場という建物です。

うちとしては初めてだったのですが、すぐ満室になりました。

保育園や老人ホームなども、初めての時には失敗もありましたが今はそれも活きています。

それからお客様と一緒に近隣問題など、何か大きなものを乗り越えた案件も、結構印象に残りやすいですね。

もちろん、スムーズに進む方が一番いいのですが、「これ大変だったよね」と振り返って話せるような仕事が一番印象に残ります。



菅さん

今、東京ではサービス付き高齢者向け住宅というものに補助金が出るので、デベロッパーさんによってはそこを狙っています。うちはもう実績が結構あるので、そういった設計依頼が来ます。

うちは結構テナント系が強いんですよ。

特にクリニックなどは難易度が高くて、歯科は床下に排水設備を張り巡らせないといけないとか、通常の設計では気付きにくい部分も、今までの実績でノウハウが蓄積されているのでお役に立ちやすいです。

収益系の建物を中心に、(建物)規模の小さいものから大きいもので手がけています。



村野広報委員長

ありがとうございます。
地域に根ざした企業として、大切
にしていることはありますか。

菅さん

今は、この地域の方からは新規の
仕事ができることは少ないのですが、
やっぱり一番のベースはここ（仙川
の街）で、この実績があるから他
地域の仕事も取れていると考えてい
ます。なのでその恩返しをするよう
な気持ちで、ずっと関わっていき
たいという思いがあります。

地域が良くならないと、うちも良
くならないと思っています。わざわざ
ざ口には出しませんが、そこは大切
にしているところです。

村野広報委員長

今、色々な活動をされている中
で、そういうところの人脈であつた
り、その中で信頼を得て仕事が回っ
てくるということもあるのでしょうか。



菅さん

そうですね。やっぱり、地元で信
頼されていないのに、他の地域から
信頼されるはずがないと思っていま
す。

村野広報委員長

これは確信されていますね。

菅さん

これはキーワード的に（ホームペ
ージにも）「バーン」と出したりしてい
て、それが一番の強みでもあります
ね。

村野広報委員長

大事なことですよね。

菅さん

あと実は、父はこの辺りではなく
熊本出身なんです。なので言ってみ
たらうちは「ソト者」なんですよ
ね。

でも、そのソト者を受け入れてい
ただいた地域だからこそ、父は本当
に人とのつながりを大事にしていま
した。スナックを何軒も回って、地
主さんや商店の人たちと仲良くなっ
て（笑）。

村野広報委員長

菅会長のお人柄もあって、ファン
が多いですよ。

菅さん

そういう理由で、父のファンが多
いので、「菅さんだから」という風
に頼んでくれたお客さんも多くて、
そこは本当に感謝しています。

菅さん

仙川は、狛江・世田谷・三鷹など
に挟まれた市境・区境の地域で、結
構独立した感じの地域なんです。そ
れで人の出入りも結構あるせいか、
他の地域から来た人を受け入れる文
化があるんです。

そして不思議とすごく仲も良いの
ですが、やっぱり地主さん同士だと
難しい問題などもあるんです。でも
そういう時に、よそ者だからこそ間
に入れるというのがすごく強みでし
た。

「まあまあ」と言いながら妥協策
を考えて、みんなで建物を建ててい
くという役割がうちの父にはあつた
んです。それも含めて重宝されてい
たので、そういったものも武器にし
ていた感じですね。





村野広報委員長

本場に仙川の「街」を作られたんですね。

菅さん

そうですね。

仙川を知らない方でも、これを見て興味を持ってもらえたら、今はGoogleとかでも見られるじゃないですか。そうやって見てもらえて、「すごいね」と言ってもらえることが多いです。

(この案内図が)説得力になっている感じですよ。



村野広報委員長

四十五年と歴史も長いですが、社長が寛人さんに替わって、経営方針などお客様の頃と変わった部分はありますか？

また、気にしていること、大切にしていることがあれば教えてください。

菅さん

父の頃とは時代も違うので、やはり価値観は違いますね。

それこそ父は「勝つか負けるか」みたいな激動の時代だったので、やはりどうしてもワンマンに偏りがちな部分があったとは思っています。

でも二代目として、そこで協力業者さんは大切にしないと、父と同じようにしているだけだと信頼関係とか崩れてしまうなと思って。

菅さん

だからお客様はもちろん、従業員の方とか、協力業者さんも「協力してくださっている」という意識で、人を大切にすることを心がけています。

世の中も全体的にそういう流れがありますが、やはり感謝がベースにあって仕事をしていく、という感じでしょうか。

父も、もちろんそういう気持ちはありますが、仕事のために少しシビアなところもあるので、そこは少し違うところですよ。

村野広報委員長

お客様、お得意様も含めての関係づくりが大事ですね。同じように仕事に就いている立場として、非常にそうだなと感じます。

菅さん

まあ、私はスナックは回っていませんが(笑)。他のところには顔を出してはいるんですけど。

今は、攻めるよりも守るという意識の方が強いんです。



村野広報委員長

じゃあ「苦いスナック」は作ったりしないですか。

菅さん

苦いスナックは、作らないですね。(笑)

でも、それを守るための行動だと思っただけですね。だからそういう意味では大賛成です。

目的は苦いスナックではなく、「社員さんと作る」ことだから、みんなと同じチームに取り組んでできたのが苦いスナック、ということですから。それはとてもいいですよ。

村野広報委員長

茶々を入れてしまい、失礼しました。

あとは今回、法人会としてお話を聞きに来ているので、何か法人会に期待することや、その逆もあればお聞きできますか。

菅さん

やはり法人会は、税務署の方と繋がれるというのが、普通はあまりない機会だから面白いですよ。

それに地域での活動もいろいろな方がいますけど、なんだかんだ法人会にいる人も多いですよ。定年もないですし、地域のつながりを作りたいという目的であれば、敷居も低くてすごく気軽に繋がれる場だなと思います。



菅さん

「この先輩など、なかなか触れ合えない人も、法人会では普通に可愛がってくれる。しかも、府中・調布・狛江と三市にまたがった地域でつながりを作れるというのは、やりようによっては、すごく価値のある団体だと思っています。」

村野広報委員長

ありがとうございます。

全然関係ない話ですけど、ぼくが前回お伺いした時って、(グローバル設計さんの事務所)移転したばかりだったんですね。

菅さん

ああ、そうかもしれないですね。二〇二二年だったと思うので。

もともとは駅を降りて真っ直ぐ行ったらところにあったのですが、仙川の街も育っちゃって、もうあまり新規のお客さんも来ないから、ということとこちらに移転しました。

村野広報委員長

仙川、本当におしゃれな街になっていますよね。

菅さん

そうですね。駅の辺りの土地を広く持っている地主さんが、すごく意識の高い方で、「うちの仙川に合うテナントはどこだろう」って、(仙川)ブランドを上げるために探しに行っている地主さんもいるんです。

村野広報委員長

じゃあ、やっぱり「人」なんですね。こういう街が出来上がるのも。

菅さん

その地主さんの意識が高いということが、このおしゃれな街を造っていて、そういうテナントも寄つてくるといい循環が生まれていると思います。

逆に、家賃が上がることで、個人のお店は出しにくくなっているのが難しいところではあります。

※でも面白いのは、

この一帯は高いんですが、そこから路地に入っていくと面白いお店が入っていたり、駅の少し外側にも個人店がちよつと入るようになってきているんですよ。

今はこう(線状)だけど、面で広がっていく感じになれば面白いかなと思います。

村野広報委員長

いつか吉祥寺みたいになっちゃいそう、それも面白いですね。

この後は、仙川の街を見ながら、「ああ、これもグローバル設計さんが建てたのか」とお散歩がてらに少し歩いてみます。

(株)グローバル設計
ホームページ



菅さん

ぜひ歩いて見てみてください。素敵なお店が多いので、気になれば寄ってみてください。

村野広報委員長

じゃあ今日はお時間いただいてありがとうございます。いつもはあまり真面目なお話はないから、お話し聞けて良かったです。

菅さん

こちらこそ、今日は来てくださって、ありがとうございました。

株式会社グローバル設計さんの設計した建物

